

「ロボティック・プロセス・オートメーション (RPA)」

最近「将来、多くの仕事が人工知能 (AI) に置き換えられる」という話をよく聞きます。労働者にとっては怖い話でもあります、業務の自動化はどんどん進行しているようです。

1. 「ロボティック・プロセス・オートメーション」とは？

企業において、総務や経理などのいわゆるバックオフィス部門は、かならずしも収益に直接結びつくわけではありませんが、なくてはならない重要なものです。しかしながら、企業が利益を確保していくためには、収益増加と共に支出（経費）削減をあわせて進めることが必要です。また、少子高齢化の進展により労働力の確保が難しくなっていくことが予想されること、さらには「働き方改革」を進めるうえでも、バックオフィス部門を効率化することがますます重要になってきています。

「ロボティック・プロセス・オートメーション」(RPA: Robotic Process Automation) は、バックオフィスなどの定型業務をロボットにより自動化することです。ロボットというと、自動車の生産ラインで活躍する産業ロボットなどのハードウェアが思い浮かびますが、RPAにおけるロボットは、パソコン上で作動する仮想の「ロボット」です。特殊なプログラミング作業は不要で、RPA ツールと呼ばれるソフトウェアを導入、そのソフトウェアに業務手順を覚えさせることで、作業の自動化が可能となります。例えば、経費精算事務において、従来は「立替者が請求書を作成し領収書を添えて経理担当者に提出→経理担当者は内容をチェックし帳簿に記入するとともに、立替者への振込データを作成→立替者に振込」のような複数のプロセスを人間が処理する必要がありましたが、RPA では、「立替者が領収書をスマートフォンで撮影→そのデータが社内の経理システムに連動し、内容チェック・経費計上・支払事務等を自動的に処理」というように、業務のシステム化が可能となります。

RPA によって業務の正確性アップ、処理スピードアップなどの効率化が図られます。大企業だけでなく、中小企業でも導入事例が増え、すでに1割以上の企業で導入されているとの調査報告もあります。

2. 「RPA」3つの自動化クラス

RPA には下表のとおり3段階のクラスがあるとされています。現時点で稼働する RPA はほとんど「クラス1」と思われますが、総務省は、RPA の技術進展により2025年までに事務的業務の3分の1が RPA に置き換わるとしています。また、定型業務のみならず、これまで人間のみが対応可能と思われてきた意思決定業務などの、より高度な作業も AI などを活用したシステムに代替されていく可能性があります。やっぱり労働者にとっては脅威かもしれません！

<RPA 3つのクラス>

	主な業務範囲	具体的な作業範囲、利用技術
クラス1 RPA (Robotic Process Automation)	定型業務の自動化	情報取得や入力作業、検証作業などの定型的な作業
クラス2 EPA (Enhanced Process Automation)	一部非定型業務の自動化	RPA と AI の技術を用いることによる非定型作業の自動化 ・自然言語解析、画像解析、音声解析、マシンラーニング技術の搭載 ・非構造化データの読み取りや知識ベースの活用も可能
クラス3 CA (Cognitive Automation)	高度な自律化	プロセスの分析や改善、意思決定までを自ら自動化するとともに、意思決定ディープラーニングや自然言語処理

総務省「RPA（働き方改革・業務自動化による生産性向上）」

閑話ひとつ

- ▶先日、インスタ映えする「湯畑」に誘われ草津温泉に行ってきました。「湯畑」も見事でしたが、驚いたのは周囲に溢れる観光客の数と、中でも若者の多さでした。
- ▶最近温泉地に行くと、周囲は私達と同じような黄昏た夫婦ばかりで、若者を見かけることは滅多になく、温泉は若者ウケしないのだと勝手に思っていたのですが、来るところには来るものだと認識を新たにしました次第です。
- ▶聞けば「湯畑」のデザインは岡本太郎氏に請うて実現したものとか。また10年前に始めた LED による幻想的なライトアップも平成世代（特に女性）に訴求するのだなど、不思議に納得させられました。
- ▶観光地や温泉地は、既知の魅力は伸ばしつつ、未知の魅力をも常に創り出していく事が、過去の栄華を伝説にせず、時代とともに伝統として守っていく唯一の道なのでしょう。
- ▶今度は県内の温泉を巡り、新たな魅力を発見してみたいと思います。

(MW)